

# インクルーシブ教育システム推進センター 地域実践研究概要

## 「地域実践研究」とは

- ・インクルーシブ教育システム構築に向けて**地域や学校が直面する課題を研究テーマ**として設定し、地域と協働して課題の解決を目指します。

## 平成28年度指定研究協力地域と地域実践研究テーマ

### メインテーマ1

インクルーシブ教育システムの構築に向けた体制整備に関する研究

指定研究協力地域	研究テーマ
青森県	地域におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する研究
埼玉県	インクルーシブ教育システムの構築に向けた研修に関する研究

### メインテーマ2

インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育に関する実際的研究

指定研究協力地域	研究テーマ
静岡県	交流及び共同学習に関する研究
神奈川県	教材教具の活用と評価に関する研究

インクルーシブ教育システム推進センターの詳細は、こちらのWebサイトからご覧いただけます。

 <http://www.nise.go.jp/cms/>

## 平成28年度実施

### メインテーマ1

#### インクルーシブ教育システムの構築に向けた体制整備に関する研究

#### 地域におけるインクルーシブ教育システム構築に関する研究 —学校間連携及び県・市町村間連携を中心に—

指定研究協力地域	青森県（平成28年度）
研究代表者	牧野 泰美
研究分担者	涌井 恵（副代表）、森山 貴史、藤本 裕人、深草 瑞世、李 熙馥
地域実践研究員	佐々木 恵
研究期間	平成28～29年度

概要：これまでの本研究所における研究で整理されてきているインクルーシブ教育システム構築のための重要事項を、地域において実効性のあるものとするためには、地域の状況、地域の有する課題に応じた方策が必要であり、本研究では、指定研究協力地域等において実践的な検討を行い考察します。地域の実態によっては、その地域が有する学びの場の機能を検討し最大限活用する工夫、それらの相互の連携の在り方、各関係機関や学びの場が有する知見・ノウハウの共有化、県が市町村を支える体制の強化等が重要であり、地域の実態、抱える課題に応じてそれらを進める方法を見つけていくことが求められています。

本研究は、これまでの知見の整理、各地の課題や取組の収集、指定研究協力地域の状況調査、地域への働きかけ（ワークショップ等）と実践等を通して、**地域での推進方策を考察し、各地域がインクルーシブ教育システムの構築を進めていく上で参考となる取組を提供するものです。**

#### インクルーシブ教育システム構築に向けた研修に関する研究 —「インクルーシブ教育システム構築研修ガイド」の活用—

指定研究協力地域	埼玉県（平成28年度）
研究代表者	長沼 俊夫
研究分担者	大崎 博史（副代表）、明官 茂、伊藤 由美、玉木 宗久、半田 健
地域実践研究員	西 聡
研究期間	平成28～29年度

概要：インクルーシブ教育システムの構築に向かうためには、特別支援教育の一層の推進が重要です。その基盤となるのは、一人一人の多様なニーズに応じた指導・支援の充実です。そのためには、教員個々の専門性の向上を図るだけでなく、教員一人一人の力が十分に発揮されるようなシステムの構築を考えていく必要があります。

本研究所では、インクルーシブ教育システムの構築に向けて、平成24年度に、教員が必要とする基盤となる資質・能力とは何かについて検討し、教員に求められる資質・能力を習得するための研修の方策例である「インクルーシブ教育システム構築研修ガイド」を取りまとめました。さらに、平成26年度には、体制づくりに関する実際的な研究において、各学校における基礎的環境整備、合理的配慮への支援の取組に関すること、地域支援の活用による教育の充実に関すること、教育の専門性に関することを重視すべき内容としてまとめました。これらの先行研究で提案されたガイドや考え方を参考として、**実践的な研究により、教員の資質・能力の向上につながる研修について、その企画・運営の在り方を提案します。**

## メインテーマ2

## インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育に関する実際的研究

## 交流及び共同学習の推進に関する研究

指定研究協力地域	静岡県（平成28年度）
研究代表者	久保山 茂樹
研究分担者	定岡 孝治（副代表）、新平 鎮博、齊藤 由美子、小澤 至賢、西村 崇宏
地域実践研究員	井上 久美子
研究期間	平成28～29年度
<p>概要：交流及び共同学習は、障害のある子どもと障害のない子どもがともに学ぶ機会であり、インクルーシブ教育システム構築に向けた基礎的環境整備に位置づけられるなど重要な教育活動です。これまで文部科学省モデル事業等によって事例的な検討がなされてきましたが、全国的な実施状況や課題を明らかにした研究や、基礎的環境整備や合理的配慮等、インクルーシブ教育システムの視点で検討した研究や、障害のある子どもとない子どもの双方にとっての意義について具体的に検討した研究は見当たりません。そこで本研究では、全国調査や実地調査を通じて、<b>交流及び共同学習の実態を明らかにし、インクルーシブ教育システム構築に向けた交流及び共同学習の在り方や意義について教育現場や施策に提言します。</b></p>	

## 教材教具の活用と評価に関する研究

## —タブレット端末を活用した指導の専門性の向上と地域支援—

指定研究協力地域	神奈川県（平成28年度）
研究代表者	金森 克浩
研究分担者	棟方 哲弥（副代表）、田中 良広、新谷 洋介、横尾 俊、神山 努
地域実践研究員	小原 俊祐
研究期間	平成28～29年度
<p>概要：文部科学省が平成25年8月に出した「障害のある児童生徒の教材の充実について 報告」において「障害のある児童生徒について将来の自立と社会参加に向けた学びの充実を図るためには、障害の状態や特性を踏まえた教材を効果的に活用し、適切な指導を行うことが必要である。」とあります。また、本年4月から施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」にもICT等の機器を活用した合理的配慮の実施が例示されているところであり、ICT活用の具体的な方法を示すことが重要です。</p> <p>そこで、インクルーシブ教育システム構築に向けたツールとして、合理的配慮を実現するためのICT機器の活用をどのように充実させるかを明らかにすることを目的とします。本研究においては<b>特別支援学校のタブレット端末の活用における専門性を高め、地域の小・中学校にその活用方法を発信することにより、インクルーシブ教育システム推進を図ります。</b>また、研究成果はポータルサイトや指定研究協力地域のWebサイトに実践事例を掲載して普及を図ります。</p>	

# 地域実践研究員の声

## 静岡県：井上 久美子

(静岡県立西部特別支援学校)

普段の教育活動から離れることで見えてくるもの、研究所の先生方と接することで得られる刺激、自分や地域の課題にじっくりと取り組むことのできる環境など、充実した得がたい日々を過ごしています。

静岡県と浜松市の交流及び共同学習の推進に向けた一助となるよう、研究に励みたいと思います。



## 埼玉県：西 聡

(埼玉県教育委員会特別支援教育課)

研究所では、共生社会の形成に向けて、力強い風が吹き、新しい形を作りだそうとするエネルギーに溢れています。

埼玉県教育委員会のインクルーシブ教育システム構築に係るミッション&ビジョンに基づいて、幅広い視点からアプローチして、現場でいかせる研修プログラムを作成したいと思います。

## 神奈川県：小原 俊祐

(神奈川県立鎌倉養護学校)

久里浜の青い海の波音をBGMに穏やかな環境の中、研究所の先生方のご協力をいただきながら、研究に参画しております。研究を通して、神奈川県の教材教具の活用における指導の充実を目指すとともに、自身の見聞も深めていくことで、地域に寄与していけるように努めて参ります。

## 青森県：佐々木 恵

(青森県立八戸第二養護学校)

研究所の研究活動への参画や他の地域実践研究員とともに研究に励む経験は、今後の自身の成長の大きな糧となることを確信しています。

青森県のインクルーシブ教育システム構築が進むよう研究所の先生方の下で研鑽を積み、その成果を地域に還元できるよう頑張りたいと思います。

## 今後5年間の研究テーマ一覧

研究テーマ		実施年度(予定)				
		28	29	30	31	32
メインテーマ①	地域におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する研究	○	○			
	インクルーシブ教育システムの構築に向けた研修に関する研究	○	○			
	教育相談、就学先決定に関する研究			○	○	
	インクルーシブ教育システムの理解啓発に関する研究			○	○	
メインテーマ②	交流及び共同学習に関する研究	○	○			
	教材教具の活用と評価に関する研究	○	○			
	多様な教育的ニーズに対応できる学校作りや指導改善に関する研究			○	○	
	学校における合理的配慮及び基礎的環境整備に関する研究			○	○	

お問い合わせ：〒239-8585 神奈川県横須賀市野比5-1-1

国立特別支援教育総合研究所 インクルーシブ教育システム推進センター

地域実践研究事業担当 原田・久保山・牧野・伊藤・深草

E-MAIL v-jissen@nise.go.jp



NISE